

令和6年度

学校評価総括表

五條市立五條南小学校

<p>学校教育目標</p>	<p>夢・志をもち、社会を「生き抜く力」を育む ～ 自立・自律・自学（3J）～</p>		<p>総合評価</p>
<p>運営方針</p>	<p>学校教育目標及び「目指す学校像」・「目指す児童像」の具現化を図るために、教職員一体となって共通理解のもと、家庭や地域との連携を図りながら、PDCAを意識した教育実践に取り組む。</p>		
<p>令和5年度の成果と課題</p>	<p>本年度の重点目標</p>	<p>具体的目標</p>	
<p>[成果] ・学校統合3年目を迎え、子ども、教師、保護者、地域も新しい学校生活にも慣れ、落ち着いて学校生活を送ることができている。統合時に危惧された人間関係や新しい生活様式への不安はほとんど見られない。 ・全国学力学習状況調査、及び各種調査テストの結果より、国語、算数ともに学力の向上が見られる。</p> <p>[課題] ・昨年度に比べ、少し学力の向上は見られるが、各種アンケート結果より、家庭学習の定着にまでは至っていない。 ・いじめの根絶やいじめの未然防止、早期発見に努め、一人一人の権利が尊重される学校づくりに引き続き努める必要がある。 ・学校・地域パートナーシップ事業を推進し、より一層、学校、家庭、地域が協力して、新しい学校文化を創っていく必要がある。</p>	<p>◎自ら学び、自ら考える力を高める</p>	<p>○授業改善、授業力向上を図り、子どもたちが主体的・自立的に学ぶことができる。 ○児童の非認知能力をはぐくみ、学びに向かう力を高め、家庭学習習慣の定着、学力向上を目指す。</p>	
<p>◎共に力を合わせ支え合い、自分や友達、ふるさとを大切に思いやりの心を育む</p>	<p>○児童一人一人の権利が最大限尊重される学級づくり・学校づくりを目指す。 ○地域人材、地域教材を活用した授業等の取組を充実させ、ふるさとに学び、ふるさとを愛する思いをもつことができる。</p>		
<p>◎自らを鍛え、高め合い心身の健康増進と体力を向上させる</p>	<p>○自ら進んで基本的な生活習慣を身に付け、集団でのきまりを守ることができる。 ○自分の課題を明確にし、課題に応じた活動を計画的に取り入れて、体力や運動能力の向上に根気強く取り組むことができる。</p>		

B

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
自ら学び、自ら考える力を高める	○授業改善および授業力向上を図り、子どもたちが主体的・自立的に学ぶことができる。	算数科を中心とした教科における思考力・判断力・表現力向上のための授業改善を図る。(児童の自己評価80%)	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・B基準(その授業で目指す姿)を明確にもち、授業を組み立てることで、めあてがはっきりし、自ら学ぶことができる児童が増えた。 ・考えを使う機会を設定することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す姿をさらに具体化し、個々に応じた目標設定や、スモールステップでの進め方の提示をし、一人一人のより主体的・自律的な姿を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科の学習で学んだことを生活場面に生かせる取組はよかった。 ・タブレットを使った学習については、子どもたち一人一人が効果的に活用できているか確認が必要である。また、タブレットの活用の幅の広がりに合わせて、教職員が対応できるための研修の機会をつくる。 ・全国学力学習状況調査の結果検証をフィードバックし、子どもたちの課題を踏まえた具体的な取組を共有して、目指すべき子どもの姿を具体化して取組を進める。また、その取組を小中連携して継続していくことも大切である。
		次の問いを見出せる授業を実践し、児童がわかる喜びを味わい、学びに向かう力を高める。(児童の自己評価90%)	B			<ul style="list-style-type: none"> ・課題意識を持たせ、もっと学びたいと思える見通しを提示することができた。 ・個々に応じた課題設定については、さらなる研修が必要である。 		
	○児童の非認知能力をはぐくみ、学びに向かう力を高め、家庭学習習慣の定着、学力向上を目指す。	自ら課題を見つけ、計画的に学習に取り組む力を高められるよう自主学習の充実を図る。(児童の自己評価80%)	B	B		各クラス学年や学級の実態に合わせて、いろいろな課題の出し方や形態、内容で家庭学習を出し、子どもたちの学力向上を目指した。しかし、高学年になるほど、主体的に学ぶ事への意欲の減少傾向が見られる児童が増加していることが課題である。	<ul style="list-style-type: none"> ・『子どもたちに付けたい力』「本校の研究主題」と「宿題の在り方」について、次年度に向けて職員全体で話し合い、方向性を定める。 ・学校(教師)の責任の範囲について、職員全体で話し合い、共通理解する。 	
		基礎・基本の学習だけでなく、タブレットを活用したAIドリルなど家庭学習内容の充実を図る。(児童の自己評価80%)	B			タブレットの活用について、各学級でばらつきはあるものの一定数の成果はみられている。しかし、タブレットの活用と健康面(目や脳など)やアウトメディアとのバランスについて、世界の情勢なども視野に入れて熟考する必要がある。		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
共に力を合わせ支え合い、自分や友達、ふるさを大切にし思いやりの心を育む	○児童一人一人の人権が最大限尊重される学級づくり・学校づくりを目指す。	いじめの根絶を目指し、いじめの未然防止や早期発見等の取組を行う(いじめ解消率100%)	A	B	・いじめがない学校づくりのための道徳教育、人権教育など学級指導を行っていた。また早期発見および即対応ができた。	・人推部から、人権教材を啓発し、各学級で取り組みやすい形にしていく。また人権放送に取り組み、自他の人権について考える時間を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの認知については、教職員が常にアンテナ立てて見逃さないことが大切である。 ・いじめの認知件数よりも解消率が100%であることが重要で、いじめ対応委員会を開催して情報共有をおこなうなど各事案に丁寧に取り組んでいる。 ・不登校児童の対応については適応教室の活用など関係機関との連携を図り、適切に対応する。また、学力保証のために家庭で学習に取り組む手立ての工夫も必要である。 ・地域の活動や行事に参加し、ふるさとの良さに気付く機会をつくる。 ・市のボランティア登録を利用して、地域人材を確保し、地域とともにある学校づくりを進める。
		子どもたち一人一人が互いに認め合い、安心して学校生活を送る。(児童の自己評価80%)	B		・自他理解を図るためのグループワークや構成的グループエンカウンターに取り組み、友だちの新しい一面に気付いたり、より仲間意識を育んだりする機会となった。落ち着かない児童・学級もあり、今後より一層自他理解、人権擁護のための実践的な行動力を身につけていく必要がある。		
	○地域人材、地域教材を活用した授業等の取組を充実させ、ふるさに学び、ふるさを愛する思いをもつことができる。	地域教材や読み聞かせ等の地域ボランティアを積極的に活用する。(実施回数)	A	A	・読み聞かせボランティアを始め、多くの地域人材を活用した活動を実施することができ、子どもたちの学びが深まった。	・地域人材を活用した活動を各学年、年間計画に位置付け、活動のねらいに応じた人材を確保する。	
		学習を通して見つけたふるさとの魅力を発信することで、ふるさを愛し、自慢したいという思いをさらに深める。(児童の自己評価80%)	B		・地域で学んだことを新聞にまとめるなどして、学年に応じて工夫して発信することができた。ふるさとへの思いや意識も高まった。	・地域の歴史や文化、産業を理解し、地域の魅力に触れる機会をつくる。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
自らを鍛え、高め合い心身の健康増進と体力を向上させる	自ら進んで基本的な生活習慣や集団でのきまりを身に付けることができる。	チェックシートを活用して、生活を振り返る場をもたせ、基本的な生活習慣を自ら見直すことができる。（児童の自己評価80%）	B	B	・低学年は生活習慣・生活リズムが身に付いてきた。高学年は自分の生活時間の課題に気付くことができた。生活習慣に乱れがある児童の提出率が低い。	・事前指導を丁寧に行い目的意識をもたせる。保護者への啓発および変化と進化を考え、意欲を高め続ける取組を考える必要がある。	・基本的な生活習慣を身に付けさせるためには、低学年のうちから丁寧な指導が必要である。各学年で基本的な生活臭身についているか確認し共通した指導を学校全体で取り組む。 ・アウトメディアについては家庭の協力が不可欠で、取組の手立てや目的を保護者に丁寧に周知して進めていく。 ・遊びの変化やバスによる登校などから子どもたちの体力の低下が懸念されるので、体力向上に向けた取組を進める。
	自分の課題を明確にし、課題に応じた活動を計画的に取り入れて、体力や運動能力の向上に根気強く取り組むことができる。	全国体力状況調査結果をふまえ、授業を改善し、体力向上を図る。（体力状況調査観点）	B	B	・昨年度の体力・運動能力調査の結果を職員でシェアすることで、各学年の課題を意識しながら授業の計画が立てられた。 ・体力が向上した児童もいたが、学校全体としての体力向上には課題が残る。	・職員だけでなく児童自身も自分の体力・運動能力の現状を理解し、自分事として取り組む必要がある。目標を明確に立て、どのように向かうのか試行錯誤しながら効果的な取組を見出していく。	
		児童の体力、運動能力の課題を明確にし、体力、運動能力向上に向けた活動に進んで取り組む。（児童の自己評価80%）	B	B	・授業での目標（目指す姿）を児童に明確に提示することで、活動がはっきりし、主体的に取り組む児童が多くいた。主体的に取り組むことが『体育の授業は楽しい』『普段から体を動かす習慣がある』に繋がった。		
今年度の成果と次年度への課題		<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業目標の明確化により、児童の主体的な学びが促進した。 ・地域人材の活用や地域学習の成果発信を通して、児童の学びが深まり、ふるさとへの思いも高まった ・道徳・人権教育やグループワークを通して、いじめの早期発見・対応、自他理解、仲間意識の育成を図ることができた。 ・生活習慣の見直しやアウトメディア活動により、児童の生活リズム改善と健康的なメディア利用が促進された。 ・体力・運動能力調査の結果を活用し、各学年の課題に応じた授業計画が立案された。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導の質の向上: 個々の児童に応じた課題設定の研修が必要であり、高学年児童の学習意欲低下への対策が求められる。 ・児童指導の充実: 落ち着かない児童や学級への対応として、自他理解と人権擁護の実践力育成が急務である。 ・体力向上への取組: 一部の児童の体力向上は見られるものの、学校全体の体力向上には継続的な取り組みが必要である。 ・市のボランティア登録を活用するなどして、子どもの学びの高まりにつながる人材の確保する。 					